

■（１０３）突然の解散でも準備は万端

首相が党首討論で突如、野党側に決断を迫る形で決まった衆議院解散。翌日朝刊は１面に「あす解散 来月１６日総選挙」の大見出しが踊りました。「近いうち」発言以来、ほどなく号砲が鳴るだろうと構えていた記者も猛ダッシュ。各地で１カ月という「短距離走」に挑んでいます。

この総選挙に向けて、長期間、コツコツと準備してきた人たちが新聞社にはいます。衆議院はいつ解散するかわからないので、いつ総選挙が始まってもいいように、日頃から準備を重ねている記者たちです。全国一斉の選挙なので、全国にある取材網が同じ水準で選挙報道に臨めるようにバックアップ態勢を整えるのが主な仕事になります。コンピューターシステムが核となる最近の選挙報道は、そのシステムの構築から操作する記者やアルバイトの研修まで、必要な準備は幅広く、事務室にこもって作業を続けるこうした「裏方」の奮闘があってこそ、新聞社の選挙報道が成り立っているのです。その成果は投開票日の翌日の朝刊に集約されます。

ところで、なぜ衆議院の選挙だけ「総選挙」と呼ぶのでしょうか？ それは、一度の選挙で全ての議席を選出するからです。国の行方を決める重要選挙と位置づけて、記者も総出で臨んでいます。（山）